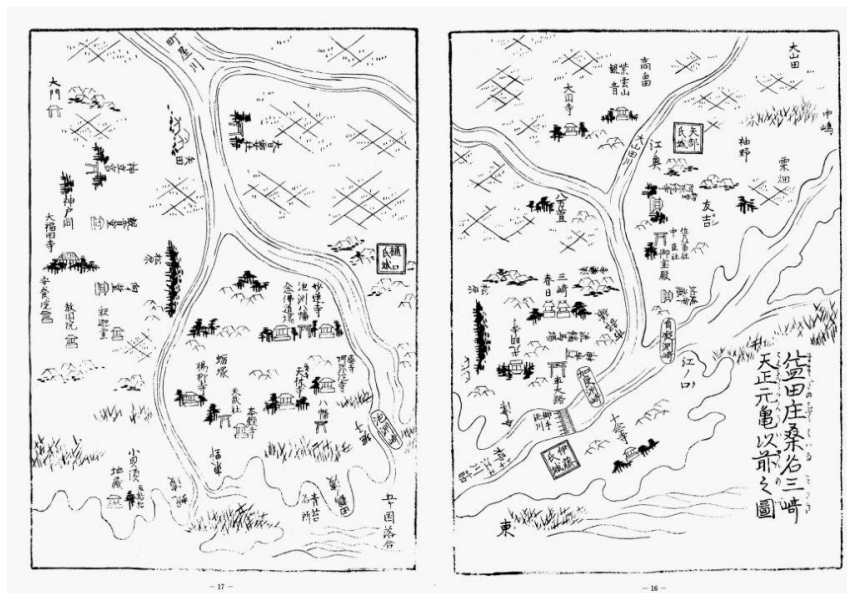


## ぶらくわな（１） 和合橋（未定稿）

西羽 晃

NHKの「ブラタモリ」は私の「お気に入り」番組です。それにちなんで「ぶらくわな」を仲間たちと行いました。「益田庄桑名三崎 天正元亀以前之図」（『久波奈名所図会』所載）には町屋川と大山田川が桑名市街地に流れ込んでいます。下記の地図では町屋川が3本に分かれています。もっとも南（地図では左）を①とし、その北を②とし、さらに北で大山田川の合流するのを③とします。その信憑性と痕跡が現在でも見られるかを検証することです。



天正時代（1573～87年）の後に、本多忠勝が慶長6（1601）年に桑名藩主となり、桑名の市街地を大きく改造しました。その時に町屋川と大山田川の流路を付け変えたと言われていました。この時の改造、農業用水の確保、鉄道線路による差し障り、そして現在では農業用水の重要性が少なくなったり、暗渠となって地上から見えなくなったり、幾多の変遷を辿っていますが、町屋川が流れていた跡（①）に今でも「三ツ矢橋」、「浅川通」、「相川町」、「矢田礮」の地名が残っています。この流路は江戸時代でも地図で明示されており、旧町屋川の名残りを示していると思われます。ちなみに馬道の旧道は旧町屋川の自然堤防であったと思われます。

現在、実際の痕跡を探すのは非常に困難になっていますが、西別所で町屋川の水を揚水する矢田用水は、元の町屋川の名残りかと思えます。矢田用水は北勢線馬道駅舎の下を流れています。駅舎のすぐ東で南へ小さな分岐があります。その分流はすぐに東向きとなり、馬道駅から馬道の通りに入る細い道には今でも橋が架かっていますが、そこに「和合橋」と書いた小さな石柱が建っています。

す。私は60年以上も通っていたのに、気づかなかったのですが、「ぶらくわな」で仲間から教えられました。今では小さな溝ですが、昔は立派な水路であり、橋が架かっていたと思います。命名された橋としては日本では最小であり、若しかすると世界でも珍しく、ギネス級かもしれません。



左手の小さな石柱に「和合橋」とあります。

現在では矢田用水から溢れた水が流れますが、普段はわずかに雨水が流れる程度の溝になっていて、水は殆ど流れていません。JR・近鉄線路の下を通り、後は暗渠ではっきりしませんが、その流れは国道421号線に沿い、さらに国道一号線の下を抜けて、伝馬橋付近で桑名城の外郭堀跡まで通じているようです。